

全地連「技術フォーラム'99」松山大会報告

1999. 9.16～ 9.18

技術委員会

はじめに

第10回全地連「技術フォーラム'99」が、1999年9月16日～18日、松山全日空ホテルで開催された。一般参加者・発表者が約650名、招待者56名の合計約700名が参加した。東北地質調査業協会からも永井理事長を始めとして多数参加した。この技術フォーラムは今回で10回を数えること、1900年代最後のフォーラムであること、四国で初めて開催されることなどから記念すべきフォーラムであった。

第一日目は、全地連技術委員会大矢委員長の開会挨拶に始まり、特別講演、技術発表会、技術者交流懇親会があり、第二日目は技術発表会と全地連委員会報告が行われ、盛況に終わった。第三日目はオプション行事で見学会が行われ全行程を終了した。



会場の松山全日空ホテル

1. 開会挨拶

大矢 暁技術委員長が開会の挨拶をされた。挨拶で委員長は、変革の時代の中で地質調査業が社会に必要かつ重要であることを認知してもらうために、更により努力する必要性があることを強調された。

2. 特別講演

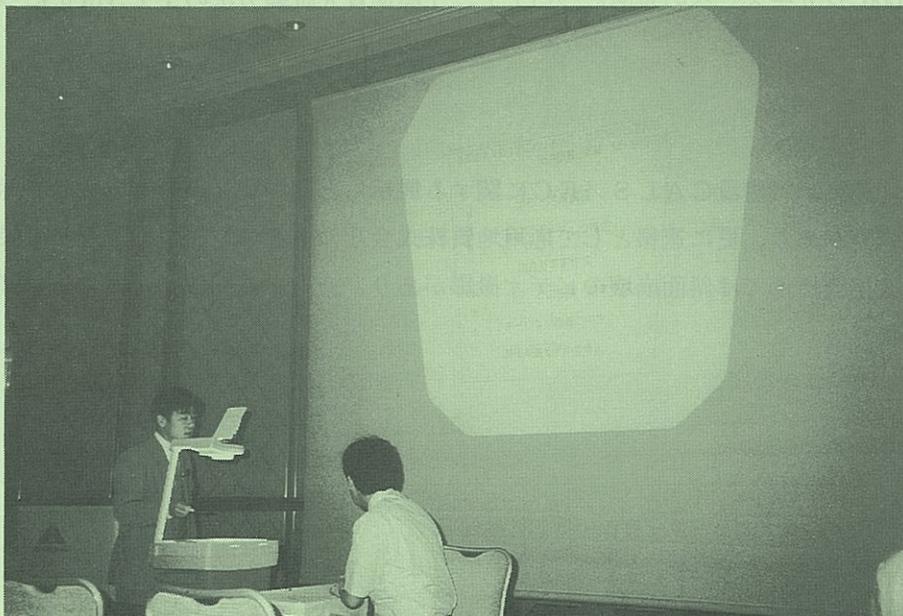
中央構造線活断層—最近の研究成果をふまえて—というテーマで、京都大学の岡田篤正教授の講演が行われた。中央構造線の研究史から始まり、活動履歴調査結果や地下構造探査結果、活動区の区分と地震規模などについて1時間15分熱弁をふるわれた。



岡田篤正教授の特別講演

3. 技術発表会

一般セッション135編、オペレータセッション17編が4会場に分かれて行われた。一般セッションは、地すべり、地域地盤、調査一般、環境調査、斜面、室内試験、動態観測、原位置試験、物理探査、空洞・ボアホール、メンテナンス、情報化、解析、地下水に区分された。各会場とも若い技術者の堂々とした発表が印象に残った。



技術発表会風景

4. 懇親会

懇親会は、松山全日空ホテル本館4F「万葉の間」で、約440名が参加して行われた。森全地連会長、

四国地質調査業協会永野理事長、来賓の挨拶があり、あちこちで交流の輪が出来た。会場の一角には瀬戸内海の幸やうどんを食するコーナーがあり賑わっていた。最後に次回の開催地である関西地質調査業協会舟木理事長の再会を期しての締めがあり終了した。



懇親会風景

5. 全地連委員報告

フォーラム2日目、南館「パールの間」で行われた。報告内容は「断面図基準化研究会報告」、「“ISO14000 シリーズ”への対応について」、「標準貫入試験方法のJIS改正について」で活動状況が報告された。

6. 展示会

展示は、全地連展示（建設CALS/ECに関する展示）と四国地質調査業協会の展示（四国の土砂災害と防災技術）があり、更に速報として応用地質株式会社のトルコ地震現地調査結果展示があった。四国地質調査業協会展示では斜面崩壊のビデオ撮影があり、迫力ある崩壊ビデオにテレビ前はいつも人だかりであった。



展示会状況（四国の土砂災害）



展示会状況（トルコ地震速報）